

## 道義的情熱の火

甲「私はいくら聞かしていただいてもだめでございます。」

乙「何がだめなのです。信じられないのですか。」

甲「聞かしていただいてもいただいても、どうしても愚痴がやみません。いつも申しあげますとおり、私の子どもたちは長男も、次男も……略……略……そうしたこと、私には愚痴の絶え間がございません。このとおりでは、とてもだめだと存じます。」

乙「ご同情申します。あなたに愚痴の出るのも無理はありません。ご長男は、母であるあなたの言うことを聞かないで、かえってあなたを戸主の権力で抑えつけて型にはめようとなさるし、次男は、放蕩で酒や女に狂うて金銭を湯水のように使いはたし、兄弟喧嘩の絶え間がない。ご長男はますます厳格、次男はますます反逆的になつて放蕩なさる。その間に立つて、あなたにはますます愚痴が出る。それは無理のないことでご同情申しあげますが、しかし静かに考えて見なくてはなりません。」

甲「教えてください。どう考えて見ればいいのでございます。」

乙「お母さんとしてのあなたは泣き方が違つてはいませんでしたか。あなたのさきほどの長い愚痴話では、二人の子どもがあなたの言うことを聞かない、お金を使うというように、あなたが中心でありました。言いかえるとあなたの我慢が通らないと泣いていられるとしか受け取られません。それでは二人のお子ども衆をそんなになさつた責任の大半はあなたが負わなくてはなりません。」

甲「そりやそうでございます。私の育てが悪いのですから。」

乙「それも心の中からのお言葉ではありません。だいたい、あなたの泣き方が違つたと申したのは、兄さんがますます権力で厳格にあなたへ臨まれるし、弟さんがいよいよ放縦に墮落していかれる、それらの姿を恐れられ、心配される前に、もつと強く恐れねばならなかつたことは、『道義的情熱の火』の消えていることなのです。」

甲「と申されますのは……」

乙「ご長男にも、ご次男にも、道を生き、道を求め、正しさを生活しようとなさる、自然の火が消えているのです。この道義的情熱の火が消えると、ご長男のように外面的な型の人になります。外面は美しいように見えても、内面は醜いもので一ぱいです。そしてその型をとりはずして、醜いものをそのままさらけ出してしまったのが弟さんで、お二人とも、墮落してしまつたのです。私どもが型をもつて人にせまることができなれないのは、道義的情熱を消すことを恐れるのです。あなたはその点を少しも考えられなかつたために、お二人の心の火をかえつて消してしまふような態度を小さい時からおとりになつたのに違いありません。言い換えると、あなたもまた、世間の子であり、型の固い人であつて、その型でお二人を抑えつけて今日のお二人をつくつたのです。すなわち問題は、あなたの全身全霊にもまた、道義的情熱の火が消えていたのです。火のない薪に火をつけるには火を持つてゆくよりほかありませんのに、火にかわるに愚痴が出ているのがあなたです。それでは、お二人はますます墮落の淵に沈んでゆくばかりです。」

甲「聞いていますと、まったく私が悪かったのでございます。」

乙「二人のお子様が救われるより先に、あなたこそ救われねばなりません。」

甲「私が救われたら子どもたちも救われましようか。」

乙「それは、わかりません。そしてそれを予定の中に入れておくことは、おそろしいことです。あなたはそのままでは、よしお二人が救われたとしても、けつしてあなた自身が救われてはいません。一途にあなたはあなたの道を急がねばなりません。」

甲「お恥ずかしいことでございます。二人の子どもは私の姿だったのです。きつとこれから本気で聞かしていただきます。」

乙「世間体をおそれる人間は、あなたやご長男のようになります。あなたのもつとも望んでいなさる姿がご長男の上に出てき、その真裏がご次男の上に出たのです。あなたや、兄さんは、必ずものに差別をつけ、善悪を裁き、形だけを美しくして喜びたい人です。弟さんは、どんな人間とでも手をとって酒をのむ人です。破れた服をきて、どこへでもゴ口寝をする人です。金があればだれにでも惜しみなくやる人です。芸者でも買います。兄さんは、きちつと袴をつけて、常にがりきつてこの弟さんを裁きます。それはあなたの家門の名を汚す不届き者だからであります。ご長男はかくていよいよ型の人になって、無内容な自己を外面だけ荘厳します。兄は弟に反逆し、弟は兄に反逆し、母は子に反逆し、子は母に反逆する。そこにおそろべき無間地獄が出現します。凡夫の裸形は『逆』の一字につきます。」

甲「おそろしいことでございます。もし先生が、兄と弟とどちらなりおとりくだされと申せば、どちらをおとりになりますか。」

乙「そうですね、弟さんをいたたくでしょう。何も放蕩が好きじゃないのですが、素裸の人の方に人間味もありますし、話もよくわかります。この意味であなたはかなりの年ですから、思いきつてその固い型を打ち破らないと、愚痴から出られませんか。釈尊の説いた道は、中道です。道義的情熱の火の燃ゆるところ、手をはなし、型をとりすても結構です。」

甲「ありがとうございます。」